

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成28年8月10日

【四半期会計期間】 第62期第1四半期(自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)

【会社名】 三信建設工業株式会社

【英訳名】 SANSHIN CORPORATION

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 大沢 一実

【本店の所在の場所】 東京都台東区柳橋2丁目19番6号

【電話番号】 03(5825)3700(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役(執行役員)管理本部長 関和 一郎

【最寄りの連絡場所】 東京都台東区柳橋2丁目19番6号

【電話番号】 03(5825)3700(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役(執行役員)管理本部長 関和 一郎

【縦覧に供する場所】 三信建設工業株式会社 関西支店
(大阪府大阪市中央区北浜1丁目1番9号)

三信建設工業株式会社 名古屋支店
(愛知県名古屋市東区葵1丁目1番22号)

株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第61期 第1四半期 連結累計期間	第62期 第1四半期 連結累計期間	第61期
会計期間	自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日	自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日	自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日
完成工事高 (千円)	2,271,900	1,964,418	10,199,566
経常利益又は経常損失() (千円)	32,909	45,991	572,582
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 又は親会社株主に帰属する 四半期純損失() (千円)	24,101	91,694	351,683
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	50,933	111,966	291,375
純資産額 (千円)	5,303,261	5,345,061	5,543,567
総資産額 (千円)	8,781,545	8,463,702	8,877,895
1株当たり四半期(当期)純利益金額 又は四半期純損失金額() (円)	2.50	9.51	36.45
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	60.4	63.2	62.4

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
 2. 完成工事高には、消費税等は含まれておりません。
 3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社に異動はありません。

第2 【事業の状況】

「第2 事業の状況」における各事項の記載については、消費税等抜きの金額で表示しております。

1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府の経済政策及び日銀による金融政策等により全般的に緩やかな回復基調で推移してはりましたが、年明け以降海外経済の回復が力強さを欠いているため円高や株安などの金融市場の不安定な動きに歯止めがかからず、更に英国のユーロ離脱などが重なり先行き不透明な状況で推移していくものと思われま。

当社グループの場合は、主として地盤注工、アンカー・斜面安定工、地盤改良工等の地盤関連技術の専門工事に特化し、V-JET、グランドフレックスモール、CPGガイドアーク、ハイスベックネイリングなどの時代のニーズに合った新技術の開発及び改良を行い、また固有の技術力の向上を図りつつ相応した事業規模で「選択と集中」を基本戦略として堅実に経営を続けております。更に、CPG、WILL、MITS、トンネル裏込注入などが国土の復旧・復興及び震災対策並びに国土強靱化に伴うインフラ整備に貢献するとともに、受注工事高、完成工事高及び利益等の事業計画達成に全力を挙げて取り組んでおります。

受注工事高につきましては、一部工事の発注時期の遅れにより24億79百万円(前年同四半期比35.3%減)となりました。

完成工事高につきましては、前連結会計年度からの繰越工事のうち一部工事の施工遅れ等により、また当第1四半期連結累計期間の受注工事高の減少により19億64百万円(前年同四半期比13.5%減)となりました。

利益面につきましては、完成工事高の減少により営業利益は1百万円(前年同四半期比69.0%減)となりました。また、為替相場が急激に円高へ推移したことによる為替差損の計上により、経常損失は45百万円(前年同四半期は32百万円の経常利益)、親会社株主に帰属する四半期純損失は91百万円(前年同四半期は24百万円の親会社株主に帰属する四半期純利益)となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

なお、当第1四半期連結会計期間より、報告セグメントとして記載する事業セグメントを変更しており、当第1四半期連結累計期間の比較・分析は、変更後の区分に基づいております。

(東日本事業グループ)

地盤改良工、地盤注土工を主とした土木工事から構成され、セグメント売上高は11億73百万円(前年同四半期比11.6%減)となり、セグメント利益は1億83百万円(前年同四半期比40.5%増)となりました。

(中日本事業グループ)

アンカー・斜面安定工、地盤注土工を主とした土木工事から構成され、セグメント売上高は4億円(前年同四半期比38.3%増)となり、セグメント利益は18百万円(前年同四半期比54.5%増)となりました。

(西日本事業グループ)

地盤改良工、アンカー・斜面安定工を主とした土木工事から構成され、セグメント売上高は2億3百万円(前年同四半期比98.6%増)となり、セグメント利益は12百万円(前年同四半期は0.7百万円のセグメント損失)となりました。

(海外事業グループ)

地盤注土工、地盤改良工を主とした土木工事から構成され、セグメント売上高は1億31百万円(前年同四半期比71.4%減)となり、セグメント利益は3百万円(前年同四半期比85.6%減)となりました。

(子会社)

建設用資機材販売及び受取特許料から構成され、セグメント売上高は1億19百万円(前年同四半期比12.1%増)となり、セグメント利益は8百万円(前年同四半期比49.5%減)となりました。

(その他)

建設用資機材販売から構成され、セグメント売上高は2百万円(前年同四半期は0百万円)となり、セグメント利益は0.9百万円(前年同四半期比70.0%減)となりました。

(2) 財政状態

当第1四半期連結会計期間末における総資産につきましては、84億63百万円であり、前連結会計年度末に比べ4億14百万円の減少となりました。主な要因は、投資有価証券、建設仮勘定及び流動資産のその他に含まれている前払金が増加したものの、受取手形・完成工事未収入金等、建物・構築物及び土地が減少したことによるものであります。

総負債につきましては、31億18百万円であり、前連結会計年度末に比べ2億15百万円の減少となりました。主な要因は、支払手形・工事未払金等及び未払法人税等の減少によるものであります。

純資産につきましては、53億45百万円であり、前連結会計年度末に比べ1億98百万円の減少となりました。自己資本比率は63.2%(前連結会計年度末は62.4%)となっております。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社が対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間における研究開発活動の金額は、23百万円であります。

なお、当第1四半期連結累計期間において当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	24,000,000
計	24,000,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末現在 発行数(株) (平成28年6月30日)	提出日現在発行数(株) (平成28年8月10日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	10,000,000	10,000,000	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数 1,000株
計	10,000,000	10,000,000		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成28年4月1日～ 平成28年6月30日		10,000,000		500,000		904,737

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成28年3月31日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成28年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株 351,000 式		
完全議決権株式(その他)	普通株式 9,620,000	9,620	
単元未満株式	普通株式 29,000		1単元(1,000株)未満の株式
発行済株式総数	10,000,000		
総株主の議決権		9,620	

【自己株式等】

平成28年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合(%)
(自己保有株式) 三信建設工業株式会社	東京都台東区柳橋 2丁目19番6号	351,000		351,000	3.51
計		351,000		351,000	3.51

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に準拠して作成し、「建設業法施行規則」（昭和24年建設省令第14号）に準じて記載しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（平成28年4月1日から平成28年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成28年4月1日から平成28年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、監査法人セントラルによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成28年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金預金	2,986,872	2,591,330
受取手形・完成工事未収入金等	2,995,515	2,683,241
未成工事支出金	1,537	2
繰延税金資産	50,323	61,362
その他	51,861	238,601
貸倒引当金	593	521
流動資産合計	6,085,516	5,574,016
固定資産		
有形固定資産		
建物・構築物(純額)	137,095	69,258
機械・運搬具(純額)	584,507	608,725
土地	228,047	173,963
建設仮勘定	-	53,152
その他(純額)	44,913	46,747
有形固定資産合計	994,564	951,847
無形固定資産		
投資その他の資産	12,732	13,310
投資その他の資産		
投資有価証券	1,656,378	1,828,756
繰延税金資産	32,808	-
その他	99,796	99,474
貸倒引当金	3,902	3,702
投資その他の資産合計	1,785,082	1,924,528
固定資産合計	2,792,378	2,889,686
資産合計	8,877,895	8,463,702
負債の部		
流動負債		
支払手形・工事未払金等	2,294,375	2,065,411
短期借入金	500,000	500,000
未払金	142,957	172,897
未払法人税等	129,815	10,939
未成工事受入金	1,602	12,189
完成工事補償引当金	1,000	1,000
賞与引当金	93,426	147,597
その他	106,401	126,860
流動負債合計	3,269,579	3,036,896
固定負債		
繰延税金負債	-	12,690
役員退職慰労引当金	57,890	57,890
退職給付に係る負債	2,823	2,823
その他	4,035	8,340
固定負債合計	64,749	81,744
負債合計	3,334,328	3,118,641

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成28年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	500,000	500,000
資本剰余金	904,753	904,753
利益剰余金	4,002,782	3,833,897
自己株式	51,536	60,885
株主資本合計	5,355,999	5,177,765
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	187,567	167,296
その他の包括利益累計額合計	187,567	167,296
非支配株主持分	-	-
純資産合計	5,543,567	5,345,061
負債純資産合計	8,877,895	8,463,702

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)
売上高		
完成工事高	2,271,900	1,964,418
売上高合計	2,271,900	1,964,418
売上原価		
完成工事原価	2,027,599	1,708,495
売上原価合計	2,027,599	1,708,495
売上総利益		
完成工事総利益	244,301	255,922
売上総利益合計	244,301	255,922
販売費及び一般管理費	239,453	254,418
営業利益	4,847	1,504
営業外収益		
受取利息	2,886	2,821
受取配当金	8,776	9,820
為替差益	17,141	-
その他	2,348	1,983
営業外収益合計	31,153	14,625
営業外費用		
支払利息	1,054	480
貸倒引当金繰入額	1,603	-
為替差損	-	61,416
その他	433	223
営業外費用合計	3,091	62,120
経常利益又は経常損失()	32,909	45,991
特別利益		
固定資産売却益	750	-
特別利益合計	750	-
特別損失		
その他	35	68
特別損失合計	35	68
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失()	33,623	46,059
法人税、住民税及び事業税	9,522	6,377
法人税等調整額	-	39,258
法人税等合計	9,522	45,635
四半期純利益又は四半期純損失()	24,101	91,694
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失()	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失()	24,101	91,694

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失()	24,101	91,694
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	26,832	20,271
その他の包括利益合計	26,832	20,271
四半期包括利益	50,933	111,966
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	50,933	111,966
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

【注記事項】

(会計方針の変更等)

該当事項はありません。

(追加情報)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を当第1四半期連結会計期間から適用しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

1. 保証債務

海外工事履行保証を行っており、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)		当第1四半期連結会計期間 (平成28年6月30日)
日商大豊營造股份有限公司	11,000千円 (3,143千NT\$)	日商大豊營造股份有限公司	10,026千円 (3,143千NT\$)
春原營造股份有限公司	6,860 (1,960)	春原營造股份有限公司	6,252 (1,960)
計	17,861 (5,103)	計	16,279 (5,103)

(注) NT\$=台湾ドル

2. 受取手形裏書譲渡高

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成28年6月30日)
受取手形裏書譲渡高	92,676千円	27,354千円

(四半期連結損益計算書関係)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)
減価償却費	55,115千円	42,161千円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年6月26日 定時株主総会	普通株式	77,194	8	平成27年3月31日	平成27年6月29日	利益剰余金

2. 株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年6月29日 定時株主総会	普通株式	77,189	8	平成28年3月31日	平成28年6月30日	利益剰余金

2. 株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。

(金融商品関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(有価証券関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(デリバティブ取引関係)

該当事項はありません。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	東日本 事業 グループ	中日本 事業 グループ	西日本 事業 グループ	海外 事業 グループ	子会社	計				
売上高										
外部顧客 への売上 高	1,327,509	289,797	102,659	459,790	92,098	2,271,854	45	2,271,900	-	2,271,900
セグメン ト間の内 部売上高 又は振替 高	-	-	-	-	14,640	14,640	-	14,640	14,640	-
計	1,327,509	289,797	102,659	459,790	106,738	2,286,495	45	2,286,540	14,640	2,271,900
セグメント 利益又は 損失()	130,515	11,761	787	23,041	17,793	182,324	3,084	185,408	180,561	4,847

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、技術本部等を含めて記載してあります。

2. セグメント利益の調整額 180,561千円には、主に社内損料として計算した減価償却費・機械等修繕費と四半期連結損益計算書計上額との差額37,847千円、賞与引当金取崩額と繰入額との差額 39,493千円及び各報告セグメントに配分していない全社費用 175,035千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第1四半期連結累計期間(自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	東日本 事業 グループ	中日本 事業 グループ	西日本 事業 グループ	海外 事業 グループ	子会社	計				
売上高										
外部顧客 への売上 高	1,173,888	400,821	203,844	131,465	51,639	1,961,659	2,758	1,964,418	-	1,964,418
セグメン ト間の内 部売上高 又は振替 高	-	-	-	-	68,028	68,028	-	68,028	68,028	-
計	1,173,888	400,821	203,844	131,465	119,667	2,029,687	2,758	2,032,446	68,028	1,964,418
セグメント 利益	183,352	18,169	12,664	3,321	8,989	226,497	926	227,424	225,920	1,504

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、技術本部等を含めて記載してあります。

2. セグメント利益の調整額 225,920千円には、主に社内損料として計算した減価償却費・機械等修繕費と四半期連結損益計算書計上額との差額 9,289千円、賞与引当金取崩額と繰入額との差額 29,697千円及び各報告セグメントに配分していない全社費用 183,100千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当第1四半期連結会計期間より、一部の意思決定単位の変更に伴い事業セグメントの区分方法を見直し、従来の報告セグメントであった「名古屋支店」と「その他」に含まれていた「関西支店」を「中日本事業グループ」に変更しております。

また、従来「その他」に含まれていた「西日本事業グループ」について、量的な重要性が増したため報告セグメントとして記載する方法に変更しております。

なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報については変更後の区分方法により作成したものを記載しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額又は 1株当たり四半期純損失金額()	2円50銭	9円51銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益又は 親会社株主に帰属する四半期純損失() (千円)	24,101	91,694
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益又は親会社株主に帰属する 四半期純損失()(千円)	24,101	91,694
普通株式の期中平均株式数(株)	9,649,258	9,637,046

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成28年 8 月10日

三信建設工業株式会社
取締役会 御中

監査法人 セントラル

代表社員
業務執行社員 公認会計士 関 口 俊 雄 印

代表社員
業務執行社員 公認会計士 松 本 典 久 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている三信建設工業株式会社の平成28年4月1日から平成29年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成28年4月1日から平成28年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成28年4月1日から平成28年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、三信建設工業株式会社及び連結子会社の平成28年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれておりません。